

## 金融機関の健全性と地域経済

内閣府経済社会総合研究所 堀 雅 博

内閣府経済社会総合研究所 木 滝 秀 彰

90年代以降の日本経済の長期低迷には、多様な要因の介在が指摘されている。不良債権問題・銀行機能低下問題の存在は、その中でも有力な仮説となっている。そのメカニズム・可能性については既に各処で論じられているが、基本的には、優良プロジェクトの存在と情報の非対称性下での銀行の役割に注目する議論（不良債権が自己資本を毀損することによる貸し渋りの発生、銀行破綻が銀行の情報生産の成果の蓄積を破壊することによる資金仲介コストの上昇、資産価格の下落による担保価値からくる資金仲介コストの上昇、デッド・オーバーハングの存在）と、会計制度やインセンティブ構造の歪みなどを重視する議論（非効率・低収益企業への安易な貸し出しの継続（いわゆる追い貸し））等がある。本報告では、こうした議論を踏まえ、地域の金融機関の健全性が各地域の経済状況や大企業・中小企業のパフォーマンスにどの程度影響を与えているかを、都道府県別90年代のデータを用いて検証した。その結果として、各都道府県の県内総生産や民間企業設備投資の変動と、当該地域の金融機関の健全性との間にはほとんど相関がみられないこと、大企業・中小企業のパフォーマンスについては、銀行機能の低下で大きな影響を受ける可能性のある設備投資の変動に対して、大企業・中小企業いずれの場合にも当該地域の金融機関の健全性は有意な影響を及ぼしていないこと、などが得られた。

現段階の分析結果をもとに、不良債権を通じる銀行機能低下の影響についての我々の見解をまとめれば、以下の通りである。

まず、情報の非対称性下での銀行の役割を下敷きとする見解には疑問が多い。とりわけ、銀行の情報生産機能（プロジェクト評価力）を前提とする見解は、データと矛盾している。また、担保価値の下落が及ぼす影響についても、担保価値下落の大きい県で特別な経済の落ち込みが生じていない等疑問が残る。デッド・オーバーハング論も、追い貸し等が横行する下で、過剰債務企業に実現できていない優良プロジェクトが多く隠されているとは信じ難い。したがって、観察される貸出減少がデフレ下での企業サイドの債務削減志向の結果である可能性も高く、そうなると銀行機能低下論に残される経路は会計制度やインセンティブ構造の歪みなどによる追い貸し経路（上記）だけになる。しかし、そのメカニズムやインパクトの大きさは必ずしも明らかではなく、この点について、今後の研究が待たれるところである。